

宇都宮市立清原東小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「自分は家族の大切な一員だと思う」児童の割合は、市平均よりも6.4ポイント高く98.5%である。
- 算数、音楽、総合的な学習の時間が好きな児童の割合は、市平均よりも9.3ポイント高く87.7%である。
- 総合的な学習の時間が将来のために必要だと考えている児童の割合は、市平均よりも10.2ポイント高く96.9%である。
- 「わからない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」児童は、市平均よりも10.8ポイント高く58.5%である。
- 「自然や宇宙など、科学の内容を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好き」な児童は、市平均よりも6.4ポイントたかく80.0%である。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的な回答の割合は、市平均よりも大きく下回っている。引き続き、宿題の内容や、家庭学習の取り組み方の指導を工夫し、家庭と連携して、家庭学習の習慣化に努めていく。
- 「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的な回答の割合は38.5%で、50パーセントを下回っている。調べ学習を中心として、図書室やパソコン室を定期的に利用する授業の計画を立て、情報を得る方法を身に付けさせていく。
- 「学校のきまりを守っている」「家でのきまりや約束を守っている」の肯定的な回答の割合は、市平均よりも大きく下回っている。道徳を中心として、きまりを守ることの大切さの重点的な指導を引き続き行っていく。
- 家庭のインターネットでフィルタリングがされている割合は、44.6%で、50パーセントを下回っている。情報モラルに関する理解を促すため、家庭と連携しながら、インターネットの利用方法や、SNS、携帯電話やスマートフォンでのメールや電話をするときのルールなどの指導の充実を図っていく。
- 「自分の行動や発言に自信をもっている」児童は、市平均よりも7.1ポイント低く、60.0%である。教室でお互いの考えや意見を認め合える雰囲気を作れるよう、話し合い活動や授業での発表方法などの工夫を行う。